

市長提案説明要旨

平成29年9月5日

本日ここに平成29年第3回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案などの説明を申し上げます。

《はじめに》

終戦から72年が経過しましたが、戦争による惨禍は多くの尊い命を奪い、世界で唯一の被爆国となった我が国では、今なお多くの被爆された方々が後遺症に苦しんでおられます。一方で、北朝鮮情勢や各地で頻発するテロ行為など、世界情勢は混沌の度合いを深めています。

平和は人類すべての願いであり、これを実現していくためには、民族や性別、文化などの違いを認め合いつつ、誰もが尊重される社会を築いていかなければなりません。様々な分野で国際交流を推進し、異文化への理解を深めるなど、草の根の取り組みが重要であると考えております。

2002 FIFAワールドカップ日韓大会では、多くの外国の方が本市を訪れ、市民レベルで積極的に交流が図られました。また、当大会を契機に、韓国・西帰浦市と姉妹都市を締結し、毎年、中学生のホームステイによる交流が進められております。

カシマサッカースタジアムがサッカー競技会場となっている2020年東京オリンピック・パラリンピックを世界各国の人々との相互交流の貴重な機会として、教育をはじめ、文化やスポーツ、観光などの様々な分野での国際交流に取り組んでまいります。

市内の小中学校では、2学期が始まり、子どもたちの笑顔と元気な声が戻ってきました。この子どもたちが夢や希望を持てる未来鹿嶋を紡いでいけるよう、全身全霊を傾けてまいります。

(国内情勢等)

次に、国内の社会経済情勢であります。

今年4月から6月までのGDP（国内総生産）は、物価変動を除いた実質成長率が前の3カ月と比べて1.0%増、年率に換算して4.0%増となりました。GDPのプラス成長が6期連続となるのは11年ぶりです。

個人消費は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要があった平成26年1月から3月期以来の高い伸びとなり、企業の設備投資や住宅投資、また公共投資も国の第2次補正予算の事業が本格化したことなどから大きく伸び、内需が全体を押し上げる形となりました。

また、8月の月例経済報告においても、景気判断を「緩やかな回復基調が続いている」とし、上方修正した6月から3カ月連続で据え置きました。

北朝鮮情勢など海外経済には多くの不安要素がある中、内需主導の持続的な経済成長に向けて重点的な取り組みが求められております。

本市においても、平成28年度の繰越事業及び平成29年度事業を着実に推進してまいります。

《事業の概要等》

続いて、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

(スポーツでつながるまちづくり)

7月29日に、2020年東京オリンピック・パラリンピックの象徴であるフラッグを県内各地で披露する「フラッグツアー」の歓迎イベントが、カシマスポーツセンターにおいて、鹿行5市の小中学生や市民など約1,500人が参加し、盛大に開催されました。

このフラッグツアーは、開催機運の盛り上げを図ろうと、東京都内で始まり、これまで東日本大震災で被災した東北3県や熊本地震で被災した熊本県で行われてきました。

この度、カシマサッカースタジアムがオリンピックのサッカー会場に追加決定されたことから、本市を皮切りに、今月29日まで、県内34の市町村と茨城県庁において、巡回展示されております。多くの皆様にご覧いただき、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさや開催の意義を考えていただきたいと思います。

本市においては、現在、大会機運の醸成やオリンピックを契機としたまちづくりを推進していくための基本方針や取組体制の検討を進めております。

茨城県や関係機関との連携を図り、市民の皆様とともに、オリンピックの成功とオリンピックを契機に創出した様々な取り組みを市の財産として、未来へ引き継いでいけるよう取り組んでまいります。

大岩監督の就任以来、12試合で10勝1敗1分けと常勝軍団の輝きを取り戻した我が鹿島アントラーズは、2位の横浜F・マリノスに勝ち点5差をつけ、首位を走っております。

リーグ戦も残り10試合、アントラーズ自慢の勝負強さを遺憾なく発揮され、優勝に向けてまい進されることを期待しております。

市民の皆様には、カシマサッカースタジアムで、熱い声援による力強い後押しをお願いいたします。

(未来を創るひとづくり・まちづくり)

小学6年生と中学3年生の全員を対象とした今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が先月28日に公表されました。

本市では、小学校の国語と算数において、基礎知識、応用力とも全国平均正答率を大幅に上回ることができました。中学校の国語においても基礎知識、応用力とも全国平均正答率を上回りましたが、数学の応用力では伸び悩みが見られました。

平成26年度から授業改善プロジェクト事業を実施し、子どもたちの主体的・協働的な学びを育ててまいりましたが、今後も、問題解決的な学習を一層進め、子どもたち一人ひとりの確かな学力の習得につなげてまいります。

小学校5・6年生と中学校3年生分の机・椅子の更新、及び鹿島小学校のエアコン設置事業については、夏休み期間を利用し整備を進め、子どもたちは、2学期から快適な学習環境で授業を受けることが出来るようになりました。

引き続き、子どもたちが、安全・安心で、快適に学べる教育環境の整備を計画的に進めてまいります。

大野区域の屋内温水プール整備事業については、学校現場や高松緑地温水プール利用者などからの意見聴取や地域説明会を実施し、多くの皆様からの声を取り入れながら、基本・実施設計の策定を完了しました。

大野区域内の学校プールの集約化と市民の健康づくりに向け、平成31年度の供用開始を目指し、来年早々の着工に向けて準備を進めております。

急速なグローバル化の進展により異文化理解や異文化コミュニケーションが重要になる中で、子どもたちのコミュニケーション能力の育成を意識した取り組みが求められています。

本市においては、外国語指導助手（ALT）とのフリートークにより英会話力を養う中学生イングリッシュラウンジや、英国留学と同様な環境で英語レッスンなどを体験できるイングリッシュサマーキャンプ、留学生が多数在籍する鹿島学園高等学校との留学生英語交流授業などを実施しております。

鹿島学園高等学校との留学生英語交流授業では、留学生延べ30人を市立中学校に派遣し、全て英語による交流授業を行いました。子どもたちからも好評なことから、年度内に再度実施する予定であります。

今後も、子どもたちの英語力や国際理解の一層の充実を図ってまいります。

今年で27回を迎えた子どもたちの夏の一大イベント「鹿嶋市フロンティア・アドベンチャー」を、7月25日から11日間に渡り、福島県の国立那須甲子青少年自然の家を拠点に開催しました。

市内小学校5・6年生の総勢69名が、テントでの野外生活を送りながら、炊さんなどの原生活体験、登山・沢登りなどの自然体験活動を通して、共同生活での協調性や社会性を学び、心の豊かさやたくましさを育みました。

私も激励に訪れましたが、出発時には不安げな子どもたちもいましたが、現地では、仲間と協力し合い、慣れない食事づくりなどに汗を流す元気な姿が見られました。

この貴重な経験は、必ずや子どもたちのこれからの人生の大きな糧になることと思っております。

「待つ」から「届ける」家庭教育への支援が求められている中、本市においては、今年度から、地域の人材を活用し、訪問型の家庭教育支援を進めております。

今月17日には、大野ふれあいセンターにおいて、「家庭教育を考える集い」を開催します。

元鹿島アントラーズ監督の石井正忠氏を講師に招いて、地域の一人の住民として、また父親として、そしてプロ選手や監督の経験などを踏まえ、「地域との関わり方」をテーマに講演をいただきます。

家庭や学校、地域が連携を深め、子どもたちの状況に適切に対応した支援を行ってまいります。

(地域資源を生かしたまちづくり)

今年の平井・下津海水浴場は、7月15日から8月20日までの37日間開設し、約4万1千人の海水浴客が訪れました。

今年は、平井海水浴場に海の家が開設され、懸念されたサメの出没はなかったものの、7月下旬からの長期の天候不順が影響し、前年度と比べ約1万7千人の減少となりました。

近年、若者の海離れが指摘されていますが、引き続き、海岸を活用したビーチスポーツや賑わいづくりなどを通して、本市の豊かな海の魅力を発信してまいります。

夏の風物詩である「第39回鹿嶋市花火大会」が、先月26日に大船津の北浦湖畔で開催されました。

観光協会のご尽力のもと、多くの個人・事業所の協賛を得て、夏の夜空に打ち上げられた1万発の花火に、約17万人の観客から大きな歓声が沸き上がり、市民をはじめ多くの皆様に、夏の一夜を楽しんでいただいたことと思います。

宮中地区賑わいづくり事業については、7月27日に、関係団体や地区内の事業者、住民で構成する第1回中心市街地活性化検討委員会を開催しました。

今後、検討委員会などで議論をいただきながら、中心市街地活性化基本計画の

策定を進めるとともに、賑わいづくりの主体となる「まちづくり会社（法人）」の設立に向けて準備を進めてまいります。

（市民と共に創るまちづくり）

この夏は、5つの地区公民館で夏祭りや盆踊り大会が盛大に開催され、大勢の地区住民の皆様が、楽しい一時を過ごすことができました。

地区まちづくり委員会をはじめ、子ども会やPTA、少年団などのボランティアの皆様が協力し合いながら準備を進め、多くの模擬店を出店するなど、華やかに会場を盛り上げていただきました。

関係者の皆様のご尽力に感謝を申し上げますとともに、これから敬老会や住民体育祭、公民館まつりなど各種イベントが続きますが、地域住民の世代を越えた交流を通して、新たなきずなを結ぶ豊かな地域づくりが推進されることを期待しております。

女性支援の一環として、昨年度に実施し好評を博した「鹿嶋市女子フェスタ」について、今年度は、第11回かしまスポーツコンベンションと共催により、10月28日に、カシマスポーツセンターにおいて開催します。

茨城国体及び東京オリンピックの鹿嶋開催を記念し、順天堂大学女性スポーツ研究センター長の小笠原悦子氏による講演や、市内で活躍する女性起業家などによる手作り雑貨の販売、親子などを対象にしたスポーツワークショップなど、どなたが参加しても楽しんでいただけるイベントとなっておりますので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

（住んで安心のまちづくり）

骨髄提供者（ドナー）の登録者数は増加傾向にあるものの、移植に至らないケースが多くあります。こうした中、ドナーの経済的負担を軽減し、骨髄などの移植の推進及びドナー登録者の増加を図るため、今年度から「骨髄ドナー助成事業」を開始しました。

骨髄提供者には、提供に係る入院又は通院費用を助成するとともに、骨髄提供者の勤務する事業所には、骨髄の提供が行いやすい環境整備への支援をしてまいります。

地域医療対策については、茨城県及び鹿行南部地域の各市と連携し、継続的に取り組みを行っております。

三次救急患者の受け入れについては、「土浦協同病院」、「なめがた地域医療センター」をはじめ、千葉県の「成田赤十字病院」、「旭中央病院」、「千葉北総病院」に対し、今年度も、直接足を運び、市民の受け入れについて、一層の連携・

協力を要望してまいりました。

市民の皆様がいつでも安心して適切な医療を受けられるよう、関係機関と連携を図りながら、医療体制の強化と積極的な情報提供を行ってまいります。

地域の課題や市民ニーズなどを把握しながら、地域福祉社会の構築を目指す「第3期鹿嶋市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定を進めております。

7月29日と8月19日には、地区社会福祉協議会や地区まちづくり委員会などから約100人の参加をいただき、地域福祉に関する講演会やワークショップを開催しました。

ひとり暮らし高齢者の生活支援や交通手段の確保、子どもたちの見守りなど幅広い分野において、熱心な議論がされておりました。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて、計画のスローガンである「つながって 支え合って みんなでつくる 福祉のまち かしま」の推進に向けて、市民の皆様とともに取り組んでまいります。

今月、市内12の小校区と6つの特別養護老人ホームなどにおいて、高齢者の皆様の長寿と健康をお祝いする「敬老会」を開催します。

対象となる75歳以上の方は9,108人で、うち100歳を超える方は30人とご長寿の方が増えており、皆様の元気なお姿を拝見し、長寿を喜び合えることを楽しみにしております。

地域の皆様方には、この事業が地域と高齢者の皆様の結びつきをより深めるきっかけとなり、地域福祉の向上にもつながるものとして、ご協力をいただきますようお願いいたします。

各地で集中豪雨や地震などにより災害が多発しており、地域防災力の要となる消防団の強化や住民の防災意識の高揚など、継続的な取り組みが求められます。

現在、市内で活動する消防団は56分団で、757名の団員が、日頃からそれぞれの地域に根差した活動をされています。

消防団員の確保が課題の中、今年度、はじめて女性消防団員5名が誕生しました。今後の活躍が期待されます。

今月17日に鹿嶋市消防ポンプ操法大会を、カシマサッカースタジアム駐車場において開催します。今後も、消防団員の技術向上を図るなど、地域防災力の強化を推進してまいります。

また、東日本大震災と同規模の震度6弱の地震発生を想定した「鹿嶋市総合防災訓練」を、10月29日に、高松中学校において開催します。

防災関係機関と市民が連携しながら、災害時における人命救助や避難所のあり方などを再確認し、市民の防災意識の高揚を図るとともに、安全・安心な地域づ

くりを進めてまいります。

地域公共交通の充実の一環である鹿行広域バス路線については、昨年5月に開設した「鹿行北浦ライン」に続き、本市と潮来市を結ぶ「神宮あやめライン」が先月8日に実証運行を開始しました。運行は毎日12便で、ショッピングセンターチェリオ・イオン鹿嶋店を発着点として、小山記念病院や鹿島高等学校、水郷潮来バスターミナルなどを経由し、JR潮来駅を結ぶルートとなっております。

本市においては、現在、地域公共交通活性化協議会で議論をいただきながら、公共交通再編実施計画の策定を進めており、公共交通空白地の解消や効率的で持続可能な交通体系の構築を目指してまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

《決算認定》

次に、本議会で認定をいただく、平成28年度決算についてであります。

一般会計において、歳入総額は、前年度比10.1%減の291億4,404万1千円、歳出総額は、前年度比13.4%減の253億4,373万6千円となりました。

この大幅な減の要因は、歳入では、復興交付金事業に係る国庫支出金などの減、歳出では、東日本大震災復興基金積立金の大幅な減などによるものです。

歳入歳出の差引額は、38億30万5千円で、繰越財源を差し引いた実質収支は、8億6,376万3千円の黒字となり、財政調整基金へ4億5千万円を積み立てし、本年度への繰越金が4億1,376万3千円となりました。

特別会計は、総計としまして、歳入が5,345万9千円減の167億9,071万8千円、歳出が1億5,248万6千円増の163億4,742万3千円となり、歳入歳出の差引額が4億4,329万5千円の黒字となりました。

引き続き、持続可能で安定的な財政運営ができるよう、行財政改革の取り組みを進め、予算の効率的、効果的な執行を心掛けるとともに、将来を見据えたまちづくりを推進してまいります。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が5件、条例関係議案が2件、契約関係議案が2件、諮問関係議案が3件、認定議案が3件、合わせて15件であります。

まず、予算関係議案は、平成29年度の一般会計及び特別会計などの補正予算であります。

一般会計補正予算については、産地パワーアップ支援事業補助金などによる農業振興事業、道路維持補修費、その他の市道整備事業、施設改修工事などによる小中学校の施設管理費、埋蔵文化財発掘調査経費、屋内温水プール整備事業、東日本大震災復興基金積立金などを計上しております。

国民健康保険特別会計補正予算については、平成28年度事業費確定に伴う国庫支出金等返還金などを計上しております。

介護保険特別会計補正予算については、介護予防サービス給付費負担金や平成28年度事業費確定に伴う一般会計への繰出金などを計上しております。

公共下水道特別会計補正予算については、公共下水道管整備工事費などを計上しております。

水道事業会計補正予算については、職員給与費を減額しております。

条例関係議案は、鹿嶋市復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例などであります。

契約関係議案は、平井東部地区液状化対策工事に係る変更請負契約についてであります。

諮問関係議案は、人権擁護委員候補者の推薦について議会の意見を求めるものであります。

認定議案は、平成28年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定についてなどであります。

私の説明は以上で終わりますが、予算、決算以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。